



2022年度 期末連結決算

2022年10月以降の水際対策の緩和等により、前年からは損益改善

関西エアポート株式会社は、2022年4月から2023年3月までの第8期会計年度連結決算において、営業収益は999億円、営業損益は148億円の損失、経常損益は256億円の損失、当期純損益*は190億円の損失を計上しました。

当期は、コロナ禍の影響が続き依然として厳しい状況にあるものの、水際対策の緩和にともない航空需要が大幅に増加し、前年度と比較すると、営業収益は50%の増加となりました。また、費用の削減を継続して取り組み、営業損益では前期比186億円の増益、経常損益では171億円の増益、当期純損益では113億円の増益となり、損益は改善しました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2021.4-2022.3	2022.4-2023.3	増減	%
営業収益	664	999	335	+50%
外部費用	(568)	(709)	(141)	+25%
EBITDA	96	290	195	+204%
減価償却費	(429)	(438)	(9)	+2%
営業損益	(333)	(148)	186	-
経常損益	(427)	(256)	171	-
当期純損益*	(303)	(190)	113	-

* 「当期純損益」は、「当社株主に帰属する当期純損益」を記載しています。

** 2021年度の損益計算書は、退職給付費用会計の会計方針の変更に伴い、組替を実施しています。

(航空需要の状況)

コロナ禍の影響が続き厳しい状況にあるものの、前年と比較すると大きく航空需要が増加し、3空港合わせた航空機発着回数は28.0万回、航空旅客数は2,759万人と、前年度と比べそれぞれ35%増、114%増となりました。国際線につきましては、10月からの大幅な水際対策緩和措置を受け、国際線旅客数は前年の約19倍と大幅な増加となりました。国内線につきましては、行動制限措置が設けられなかったことや全国旅行支援の効果もあり、3空港合計で前年を78%上回る結果となりました。また、国際旅客便の回復が進んだことや、船舶から航空貨物へのシフトの解消も見られることから国際貨物便は前年度より減少しましたが、依然として高い水準で推移しました。

	2021.4-2022.3	2022.4-2023.3	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	20.7	28.0	7.3	+35%
関西国際空港	7.2	10.8	3.6	+51%
大阪国際空港	10.6	13.8	3.2	+30%
神戸空港	3.0	3.4	0.4	+15%
航空旅客数（万人）	1,289	2,759	1,471	+114%
関西国際空港	364	1,150	786	+216%
大阪国際空港	750	1,299	549	+73%
神戸空港	175	311	136	+77%

（連結貸借対照表）

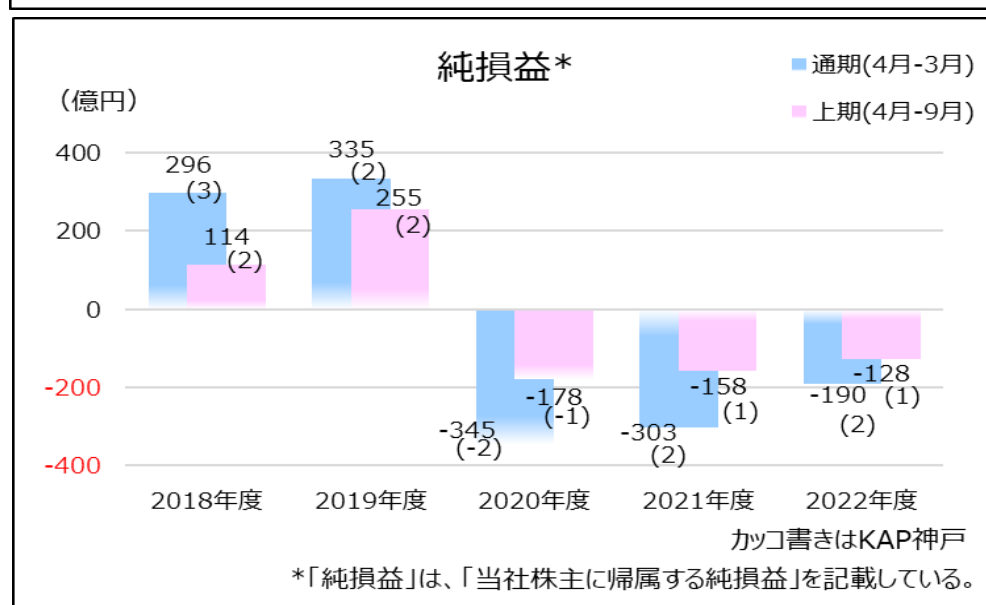
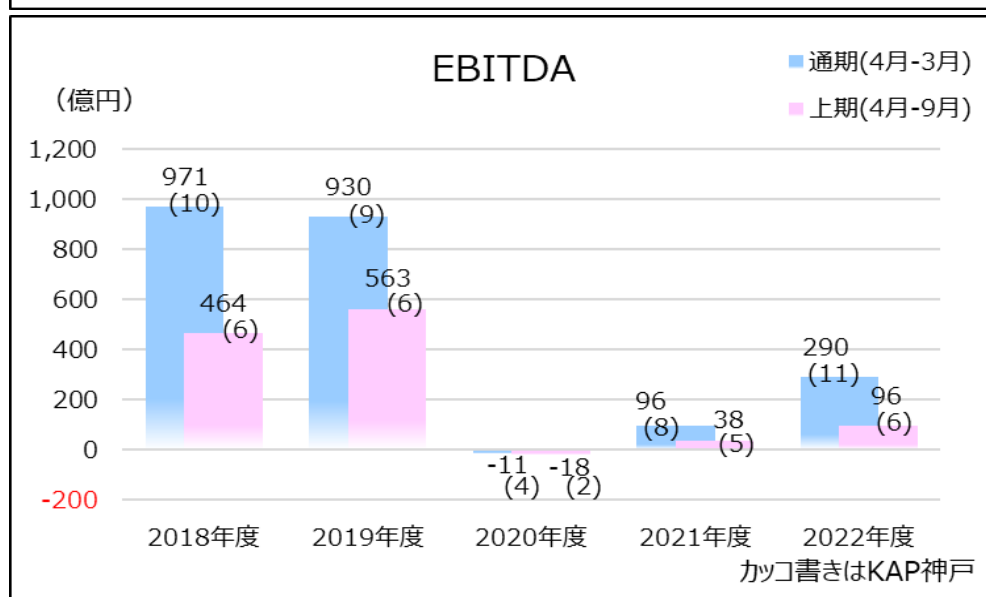
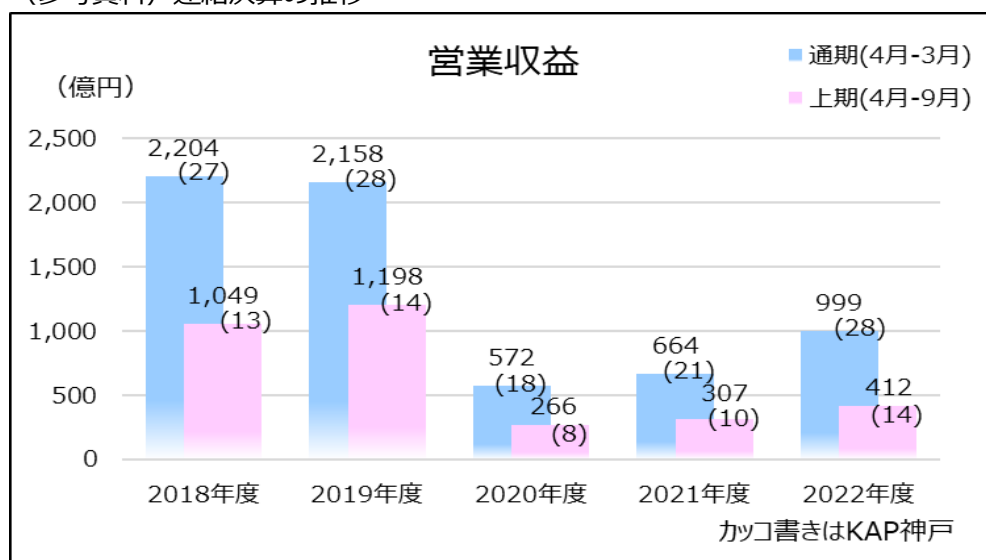
2023年3月31日現在における財政状態は、前期末と比べると、公共施設等運営権の減価償却による減少などにより、資産合計は1兆6,041億円となりました。また、公共施設等運営権対価の支払いなどにより、負債が減少した結果、負債合計は1兆5,769億円となりました。

（単位：億円）

	2022.3.31 現在	2023.3.31 現在	増減
流動資産	935	938	2
固定資産	15,370	15,104	(266)
資産合計	16,305	16,041	(264)
流動負債	641	703	63
固定負債	15,211	15,066	(145)
負債合計	15,852	15,769	(82)
株主資本	436	246	(190)
その他の包括利益累計額	(1)	6	7
非支配株主持分	19	20	1
純資産合計	454	272	(182)
負債・純資産合計	16,305	16,041	(264)

*退職給付費用会計の会計方針の変更に伴い、2021年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

(参考資料) 連結決算の推移



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
 グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
 Tel : 072-455-2201

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日 〕

(単位: 百万円)

営業収益		99,875
営業原価		100,191
営業総損失		316
販売費及び一般管理費		14,461
営業損失		14,777
営業外収益		1,482
受取利息及び配当金	501	
雇用調整助成金	311	
その他の営業外収益	669	
営業外費用		12,340
支払利息	12,089	
支払手数料	66	
持分法による投資損失	173	
その他の営業外費用	9	
経常損失		25,635
特別利益		426
固定資産売却益	319	
補助金収入	106	
特別損失		2,083
固定資産除却損	1,037	
固定資産売却損	0	
固定資産圧縮損	30	
更新投資に伴う撤去費用	1,015	
税金等調整前当期純損失		27,292
法人税、住民税及び事業税	290	
法人税等調整額	△ 8,673	
当期純損失		18,909
非支配株主に帰属する当期純利益		86
親会社株主に帰属する当期純損失		18,996

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

[2023年3月31日現在]

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	93,767	流動負債	70,327
現金及び預金	71,702	買掛金	2,724
売掛金	9,242	未払金	14,965
契約資産	120	未払費用	2,353
商品	3,030	短期借入金	10,000
原材料及び貯蔵品	1,311	1年内返済予定の長期借入金	4,102
1年内回収予定の差入保証金	2,215	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	30,326
未収金	2,659	未払法人税等	345
その他	3,485	契約負債	1,719
貸倒引当金	0	賞与引当金	1,055
		ポイント引当金	15
		その他	2,718
固定資産	1,510,356	固定負債	1,506,601
有形固定資産	26,470	社債	4,860
建物及び構築物	3,609	長期借入金	214,205
機械装置及び運搬具	12,110	公共施設等運営権に係る負債	1,221,878
工具器具備品	4,821	特別修繕引当金	50,364
土地	578	退職給付に係る負債	6,632
建設仮勘定	5,276	その他	8,661
その他	74		
無形固定資産	1,347,727		
公共施設等運営権	1,277,460		
更新投資に係る資産	68,310	負債合計	1,576,929
その他	1,956	純資産の部	
投資その他の資産	136,158	株主資本	24,594
投資有価証券	1,004	資本金	25,000
退職給付に係る資産	297	資本剰余金	25,000
差入保証金	88,377	利益剰余金	△ 25,405
繰延税金資産	45,488	その他の包括利益累計額	630
その他	1,178	繰延ヘッジ損益	630
貸倒引当金	△ 188	非支配株主持分	1,969
		純資産合計	27,194
資産合計	1,604,123	負債・純資産合計	1,604,123

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス40%、 ヴァンシ・エアポート40%、 その他の出資者20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界37カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、46空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル、イギリス、スウェーデン、セルビア、カンボジア、日本、アメリカ合衆国、ドミニカ共和国、コスタリカ、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で約250社の航空会社が就航し、2018年の旅客者数は2億4,000万人にのびます。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2018年の連結売上高は16億ユーロ、グループ全体の売上高は36億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2022年度 期末連結決算

2023.06.14



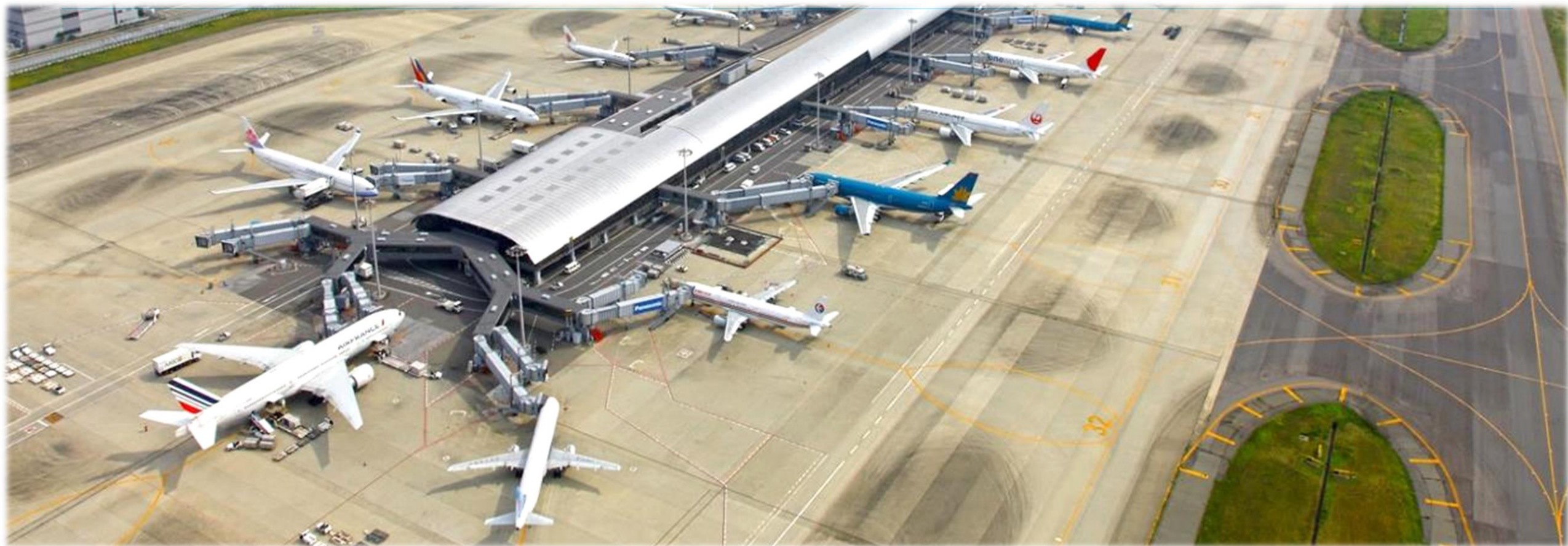
Shaping a New Journey



アジェンダ

- 2022年度 期末連結決算の概要
- 営業収益分析
- 2022年度の取り組み
- 質疑応答





2022年度 期末連結決算の概要

水際対策の緩和等により、前年からは損益改善

【単位：億円】

1. 引き続きコロナ禍の影響があるものの、大幅な水際対策の緩和や全国旅行支援の効果により着実に航空需要は増加。

2. 国際線を中心とした発着回数・旅客数の増加を受け、前年と比べ増収。

3. 費用の削減に継続して取り組み、前年からは損益改善。

	2021.4-2022.3	2022.4-2023.3	増減	%
営業収益	664	999	+335	+50%
EBITDA	96	290	+195	+204%
営業損益	(333)	(148)	+186	-
経常損益	(427)	(256)	+171	-
当期純損益*	(303)	(190)	+113	-

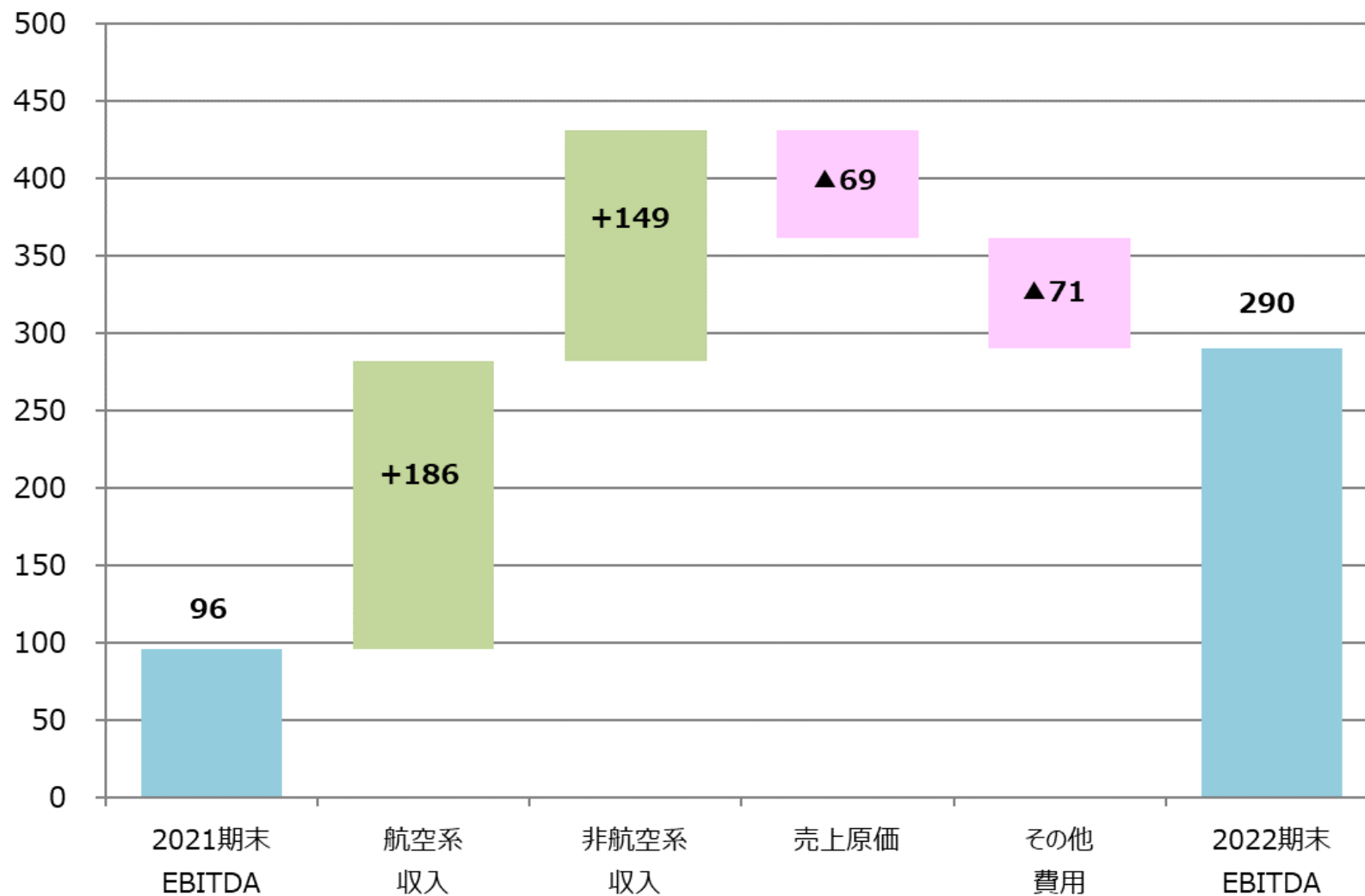
経営成績

【単位：億円】

	2021.4-2022.3	2022.4-2023.3	差額	%	うち 台風影響額
営業収益	664	999	335	+50%	
航空系	260	446	186	+72%	
非航空系	404	553	149	+37%	
営業費用（減価償却費除く）	(568)	(709)	(141)	+25%	
EBITDA	96	290	195	+204%	
減価償却費	(429)	(438)	(9)	+2%	
営業損益	(333)	(148)	186	-	
営業外損益	(94)	(109)	(15)	-	
経常損益	(427)	(256)	171	-	
特別損益	(6)	(17)	(10)	-	(11)
法人税等、非支配株主帰属損益	130	83	(47)	-36%	(3)
当期純損益*	(303)	(190)	113	-	(8)

EBITDA (前年比)

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

	2022.3.31現在	2023.3.31現在	増減	
公共施設等 運営権等	流動資産	935	938	2
	うち 現金及び預金	745	717	(28)
	固定資産	15,370	15,104	(266)
	資産合計	16,305	16,041	(264)
公共施設等 運営権に係る負債等	流動負債	641	703	63
	固定負債	15,211	15,066	(145)
	負債合計	15,852	15,769	(82)
	株主資本	436	246	(190)
	その他の包括利益累計額	(1)	6	7
	非支配株主持分	19	20	1
	純資産合計	454	272	(182)
	負債・純資産合計	16,305	16,041	(264)
【参考】				
	有利子負債残高	2,180	2,332	152



營業收益分析

航空系：国際線・国内線ともに本格的な回復基調に

→ 発着回数・旅客数

2022年度は2022年10月より国際線旅客便の回復が始まり、前年度比較で、3空港合計の発着回数は35%増、旅客数は旺盛なインバウンド需要に牽引され114%増。

→ 3空港国内旅客便

3空港ともに国内線の発着回数はコロナ前水準に回復。2019年の神戸空港発着枠拡大を受けた増便や関西国際空港におけるPeachの増便等もあり、3空港合計の国内旅客便発着回数は年度として過去最高を記録。旅客数も、全国旅行支援等需要喚起施策の実施に支えられ、前年度より大幅に増加。一方ビジネス需要の回復は遅緩傾向。

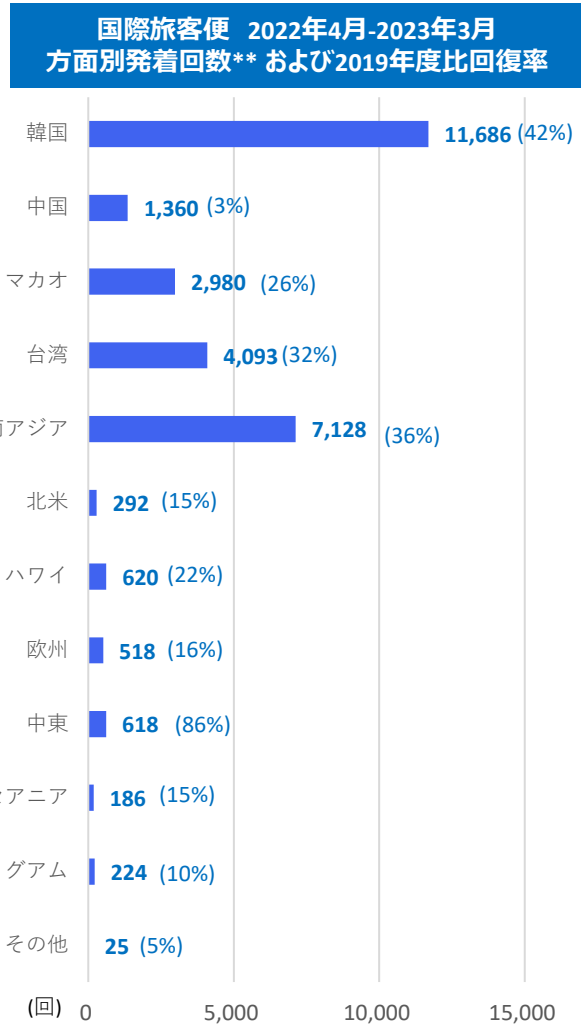
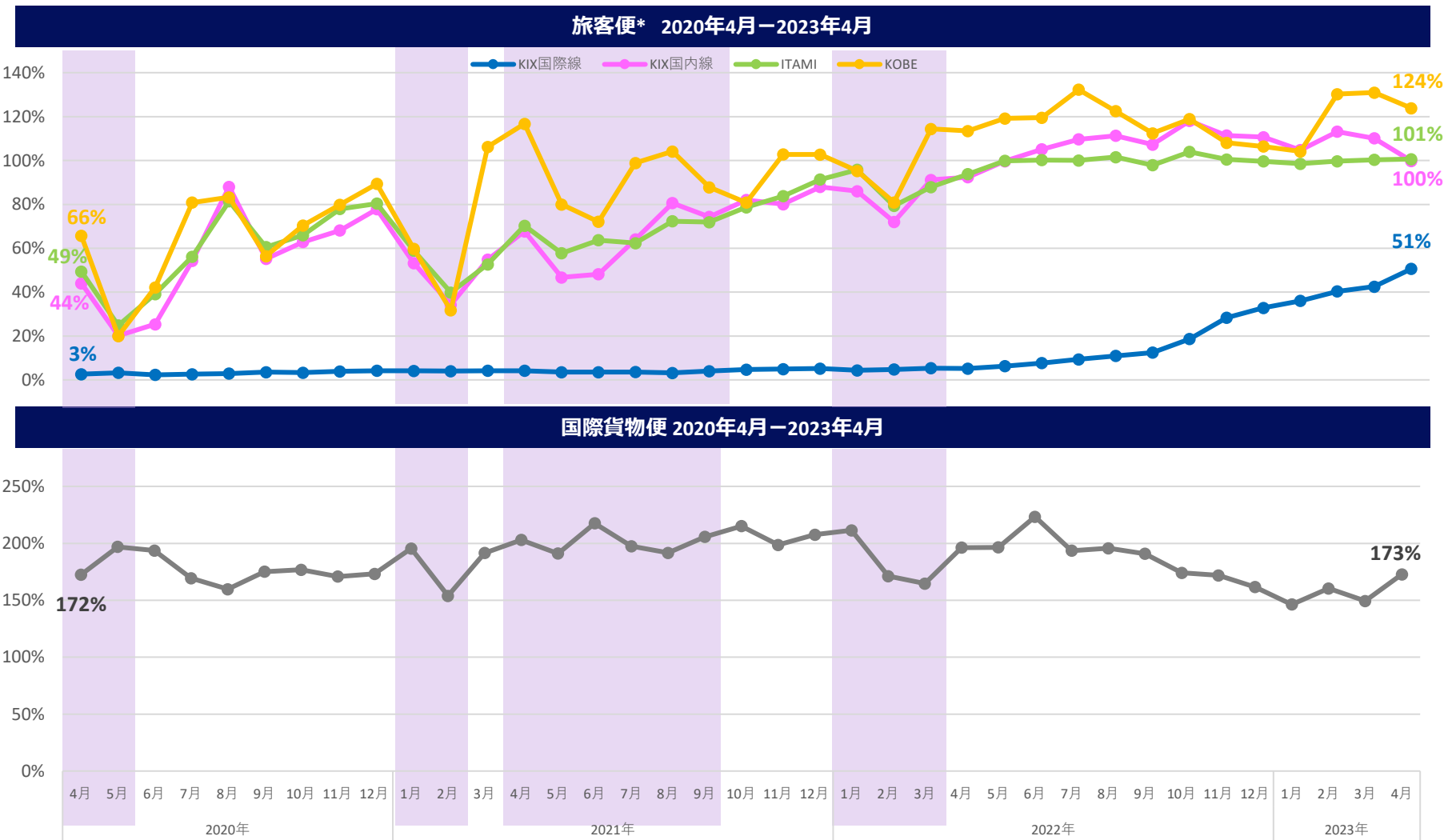
→ 国際貨物便

国際貨物便の発着回数は引き続き高水準で推移したが、国際旅客便の回復に伴う貨物輸送スペースの増加により、やや減少。

	2021年度	2022年度	前年比	2019年 暦年比*
発着回数（万回）	20.7	28.0	+35%	-26%
関西国際空港	7.2	10.8	+51%	-48%
大阪国際空港	10.6	13.8	+30%	-1%
神戸空港	3.0	3.4	+15%	+10%
航空旅客数（万人）	1,289	2,759	+114%	-47%
関西国際空港	364	1,150	+216%	-64%
国際線	27	514	+1772%	-79%
日本人旅客	12	114	+831%	-86%
外国人旅客	14	398	+2712%	-76%
国内線	336	636	+89%	-9%
大阪国際空港	750	1,299	+73%	-21%
神戸空港	175	311	+77%	-8%
3空港国内線（万人）	1,261	2,246	+78%	-16%

航空系：関西3空港 発着回数（2019年度比）

は、関西圏での緊急事態宣言・まん延防止等重点措置発令期間を含む月

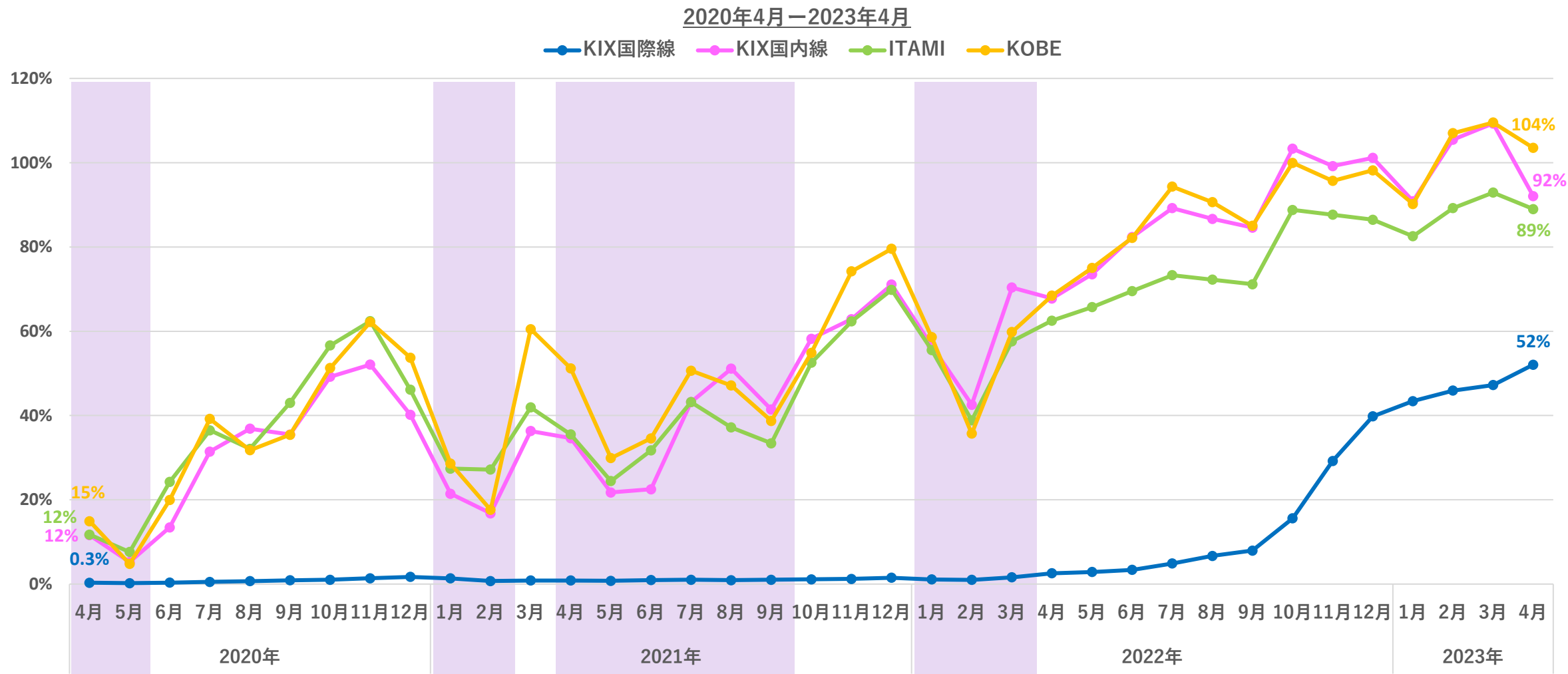


* 旅客便に関しては、2020年2、3月はすでに新型コロナウイルスによる影響を受けていたため、2021年2、3月および2022年2、3月は2018年度比で記載

**国際旅客便には、貨物輸送を目的とする運航が一部含まれる

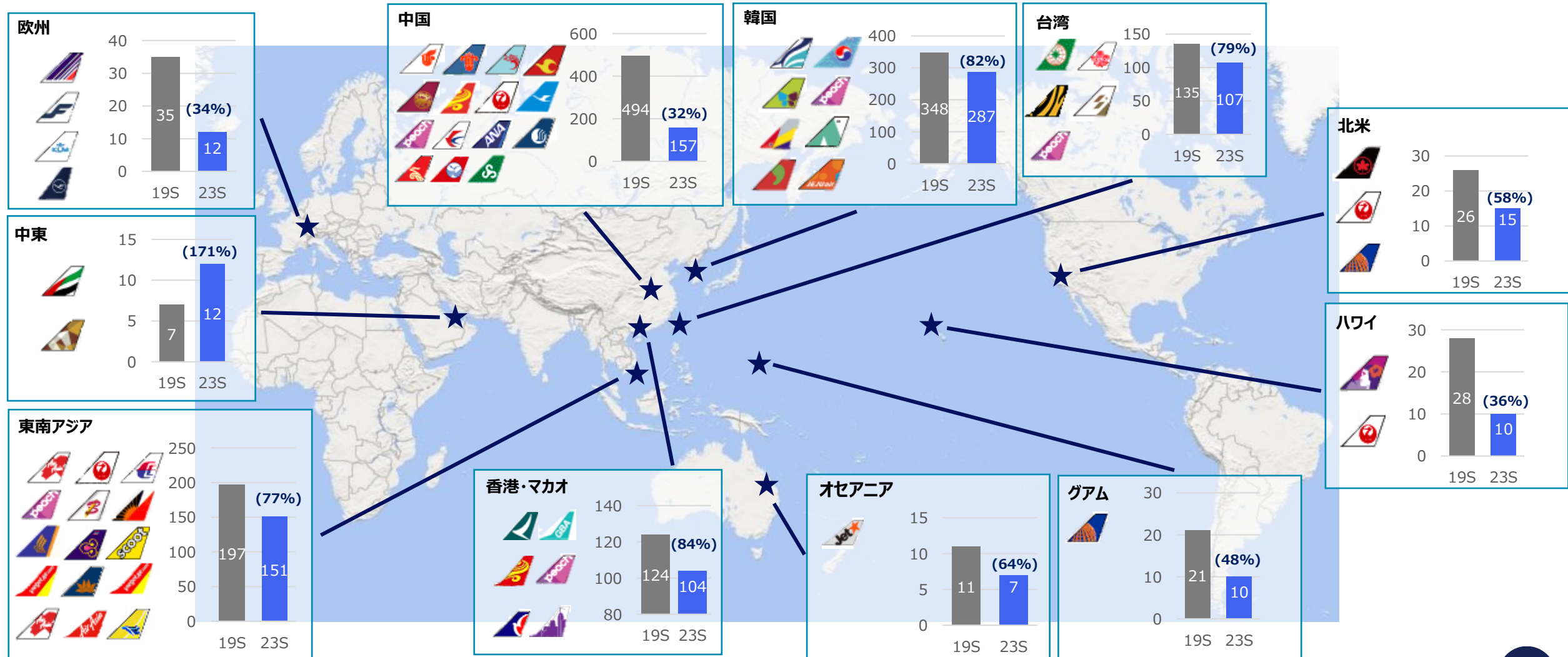
航空系：関西3空港 旅客数（2019年度比）

は、関西圏での緊急事態宣言・まん延防止等重点措置発令期間を含む月



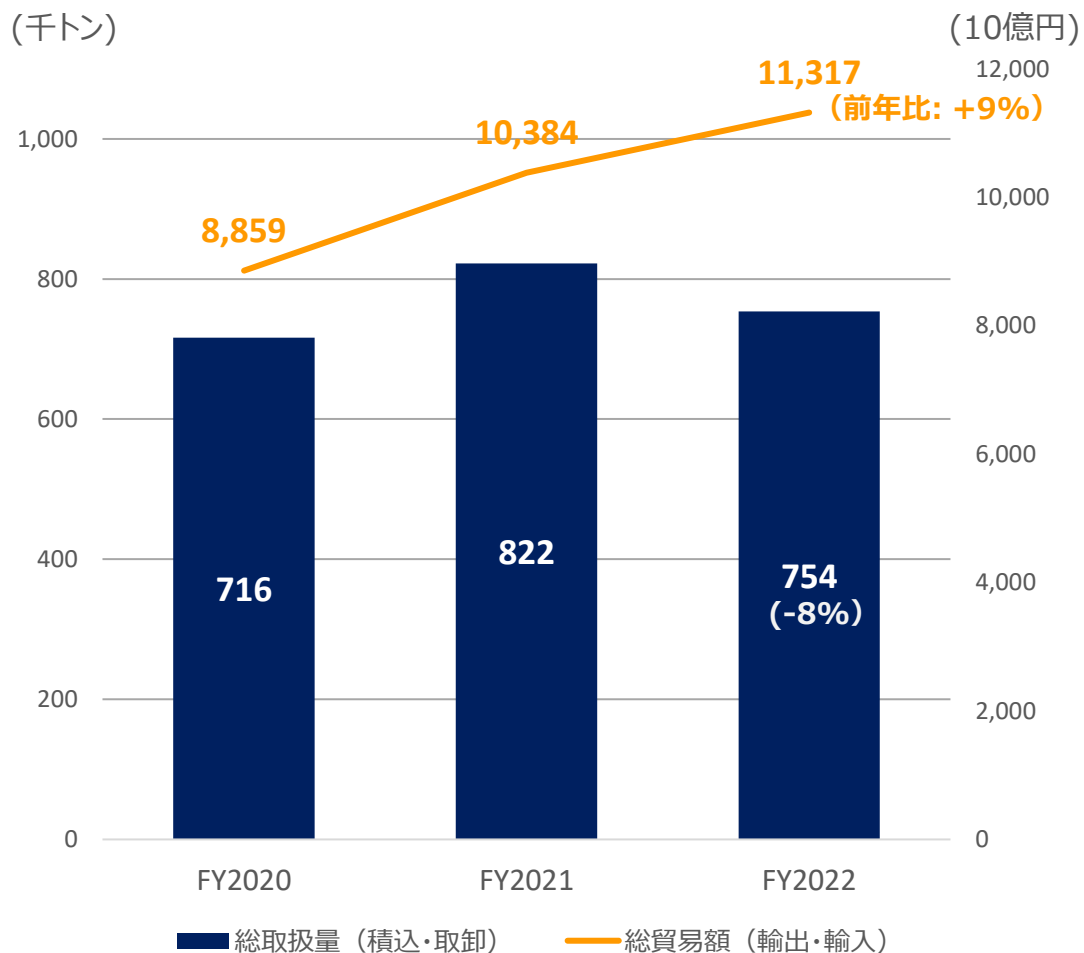
航空系：2023年度 国際旅客定期便 2023年6月7日時点

最新計画：872便 (S19比回復率61% / 中国除く76%) S23計画(3/22時点)：658便 (S19比回復率46% / 中国除く70%)



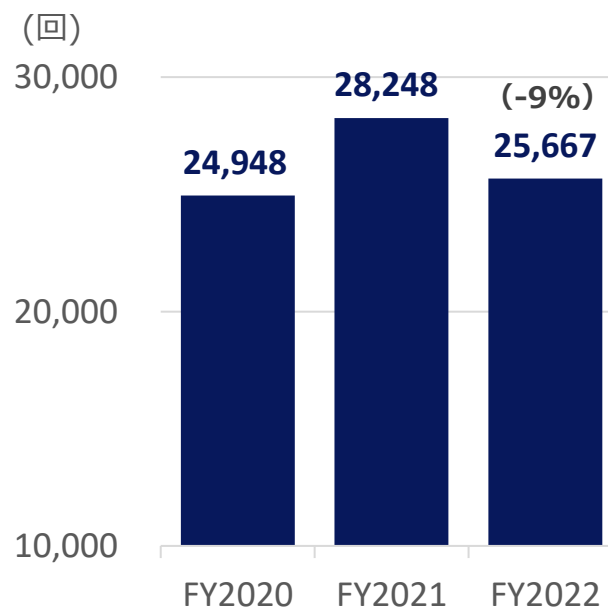
国際貨物：発着回数・貨物量・貿易額

KIX/貨物量・貿易額

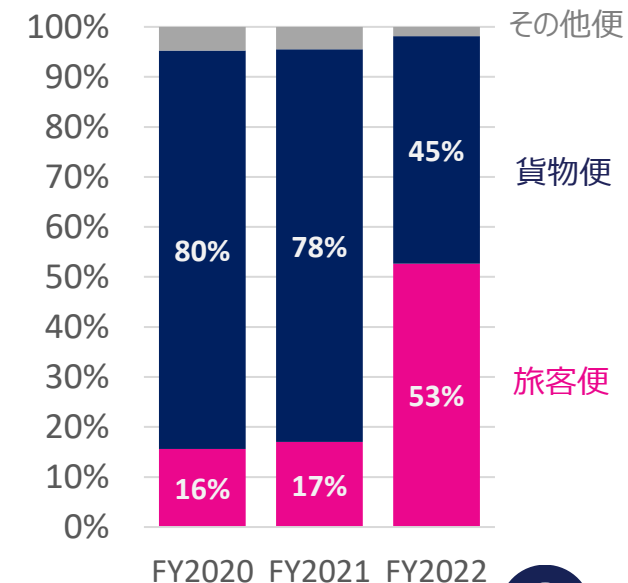


- ✧ 旅客便の急速な回復に伴う貨物輸送スペースの増加により、貨物便・旅客機利用の貨物便の発着回数は減少傾向にはあるものの、コロナ前比では依然高水準を維持。
- ✧ 昨年度比で貨物量は減少したものの、医薬品や半導体関連等の増加により、貿易額は昨年度および2020年度を上回った。Eコマースも引き続き好調。
- ✧ 2022年度当初まで継続した海上貨物輸送の混乱は落ち着き、加えて2023年度には大型の新造コンテナ船のマーケット投入が予定されており、海上輸送への回帰が進む見込み。

KIX/貨物便発着回数



KIX/国際線発着回数シェア



非航空系：新型コロナウイルスの影響が継続するも年度収入は前年比増

- 新型コロナウイルス感染症の影響による航空旅客数の大幅な減少が長期化する中、非航空系事業収入は引き続き厳しい状況が続くものの、国際線旅客が回復しはじめたこともあり、2022年度収入は+150億円(+37%)と増加。
- 航空旅客数や顧客ニーズの変動を捉え、国内線新エリアの開業や店舗の営業再開をすすめ、感染症対策を徹底しながら店舗の利用促進に努めた。



非航空系：新規店舗について

● 2022年10月26日 新国内線エリアオープン

- 一般エリア：7店舗、保安検査後のエリア：6店舗を出店
- ANA、JALのラウンジ利用者向けの共用ラウンジをオープン



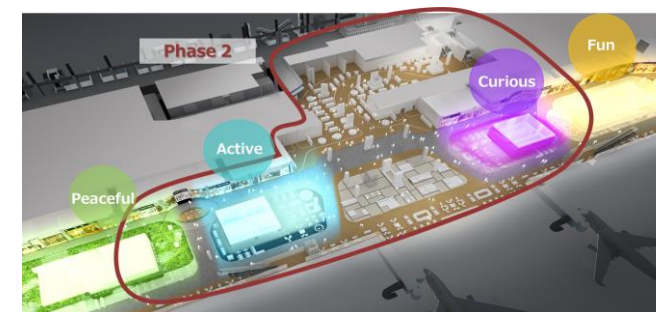
● 2023年8月頃より飲食店舗が順次オープン

- 一般エリアにて2023年8月頃、10月頃、12月頃、2024年1月頃に合計15店舗が新たに順次オープン予定



● 2023年冬頃に新国際出発エリア・中央エリアオープン

- 国際線の保安検査後のエリアに飲食店舗、物販店舗をオープン予定





2022年度の主な取り組み

2022年度の主な取り組み

3空港

- ・エアバス社と日本における水素の利活用検討で連携（6/10）
- ・日揮HD(株)との国産SAF商用化協力に関する基本合意書締結（6/29）
- ・国内空港等と共同キャンペーン「#空とツナガル、空でつなぐ」実施（9/20～）
- ・2023年夏期スケジュールを発信（3/22）
- ・新たな環境計画（環境ビジョン2050・環境目標2030）を策定（3/29）



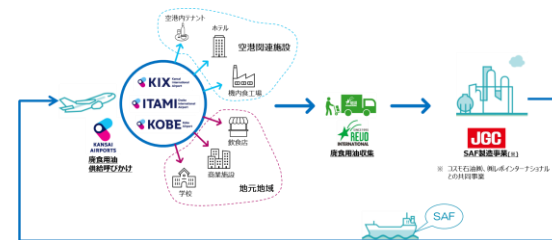
エアバス社との水素利活用検討で連携（3空港）



新たな環境計画（3空港）

KIX

- ・防災事業の土木学会技術賞受領（5/16）
- ・「CEIV Pharma」2回目となる認証取得（7/7）
- ・親子環境ツアーを実施（8/5）
- ・T1リノベーション 新国内線エリアがオープン（10/26）
- ・ゴッホ「ヒマワリ」3点の陶板名画を展示【大塚美術館】（12/2）
- ・Jブルークレジット認証を取得（12/14）
- ・阪南市と「大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト」で連携（2/14）
- ・T1、2階の新規出店テナント決定（3/17）
- ・BCP対策工事でおおさか気候変動対策賞 大阪府知事を受賞（3/17）



日揮HD(株)との国産SAF商用化協力（3空港）



親子環境ツアー（KIX）



Jブルークレジットを認証（KIX）



新国内線エリアオープン（KIX）

2022年度の主な取り組み

ITAMI

- ・ITAMIランウェイウォークを開催（7/9）
- ・空港制限エリア周遊ツアー付宿泊プランの販売（5/31）
- ・AIを使用したPBBのフルオートシステムを導入（6/27）
- ・ITAMIウィンターイルミネーションを開催（12/1～3/14）
- ・CIRIUM 2022年定時出発率ランキングの大規模空港部門で世界1位を獲得（2/3）
- ・OAG定時運航率ランキングで世界1位を獲得（2/22）



ITAMIランウェイウォーク（ITAMI）



KOBEランウェイウォーク（KOBE）



CIRIUM（ITAMI）



MINIATURE LIFE × KOBE AIRPORT（KOBE）

KOBE

- ・開港16周年記念イベントを開催（6/11、6/12）
- ・KOBEランウェイウォークを開催（7/23）
- ・「MINIATURE LIFE × KOBE AIRPORT」をオープン（9/30）
- ・ウィンターイベントを開催（12/25）
- ・開港17周年記念イベントを開催（2/18、2/19）



OAG（ITAMI）



ウィンターイベント（KOBE）